

## 支えてくれる友だち

小 五

ぼくは、お母さんのおなかの中で病気になる、左右のうが半分ずつ機能しなくなってしまうました。そのため、生まれたときから、ぼくの左手足にはまひがあります。

ぼくは、その手足が使いにくいです。体育の時間は、上手に体を動かせないことが多いので、みんなに笑われないか少し心配になります。給食の時間は、上手におぼんを持ってなくて落としてしまい、友達の洋服をよごしてしまったこともありました。さらに、荷物の多い日は、学校に行くのも大変です。

ぼくと初めて関わる友達や、関係がうすい友達の中には、迷惑をかけてしまうのと、いやな顔をする人もいました。また、運動会のクラス対こう種目では、練習の時にぼくが失敗しないか心配する友達もいました。そういう時は、落ち込んでさびしくなりました。

ある時、先生がみんなにぼくの体のことを話してくれました。その時から、みんながぼくの体を理解してくれるようになってきました。

以前は、ぼくのすることに文句を言う人が多かったのですが、今では、ぼくがこまっっていると、「だいじょうぶ。手伝おうか。」と言って、はげましてくる友達も増えました。

最近うれしかったことは、四年生の三学期に行われた、クラス対こう大なわ大会のできごとです。はじめ、ぼくは友達と同じようにとぶことは、絶対に無理だとあきらめていました。でもそんなぼくを、みんなが、

「がんばれ。」

と一生けん命はげまし、練習のときから協力してくれました。ぼくも、次第に友達の思いに応えたいと思うようになり、学校だけでなく、通級でも家に帰ってから練習するようになりました。

しばらくすると、次第に練習の成果が表れ、みんなのようにとべるようになりました。その話を病院の先生にしたら、先生もおどろいていました。ふ

り返ってみると、みんなの応えんや協力がぼくをやる気にさせてくれました。大なわ大会の練習を通して、ぼくは、友達の大切さや、友達をはげます大切さを学びました。

今、ぼくは五年生になりました。まだ、友達と同じようにできないことや少しおくれてしまうことがあるけれど、ぼくの周りには、はげましてくれるやさしい友達がたくさんいます。

そして、その友達とともに学んだり、遊んだりしていると、楽しいことやうれしいことがたくさんあります。だから、ぼくもできることは進んでやり、こまっている友達がいたら手をさしおべて、はげますことができるやさしい人になりたいです。また、何事にもす

ぐにあきらめない強い心を持てるよう  
にもなりたいです。

今、ぼくには支えてくれる友達が  
いて、そのことに感謝しています。そんな  
友達を絶対に大切にしないではいけ  
ないと思います。